

オツネトンボ

トンボ目アオイトトンボ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

Sympecma paedisca paedisca (Eversmann)

国カテゴリー なし

選定理由

生息地、個体数とも非常に少なく、開発や水質汚染の影響も受けやすい。

形態

腹長26~31mm、後翅長20~24mmのイトトンボ。越冬後は、複眼が青色に変化する。体は淡褐色で、青銅色の斑紋がある。

国内分布

北海道から九州北部まで分布するが、中部以北に多い。福井県では確実な記録がなく、富山県でも極めてまれである。

県内分布

小松市安宅新、白山市後高山、穴水町乙ヶ崎、能登町小木の記録があり、1998年には羽咋市大川町の沼で3頭を確認した。近年は能登半島の多くの地点で発見されている。

生態

平地~丘陵の抽水植物の茂る池沼に生息し、8~9月に羽化する。未熟虫は林野に分散して摂食し、日当たりのよい疎林などで成虫のまま越冬する。春になると成熟し、池沼に現われて生殖活動を行なう。卵は、連結または単独で植物組織内に産みつけられる。

生息地の条件

平地や丘陵、沿岸平野のヨシやマコモの多い池沼で、強力な捕食者がおらず、汚染がなく、付近に樹林があること。

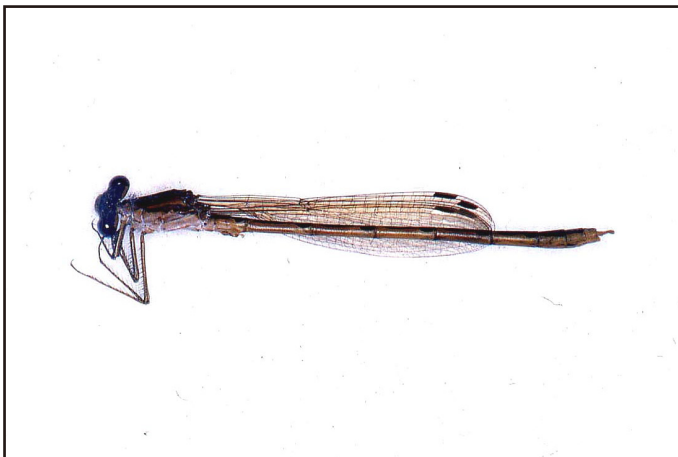
生存の危機

もともと県内ではまれで、生息する池沼が沿岸平野にあるため、埋め立てられることが多い。ブラックバスやブルーギルの移入、廃棄物投入のおそれもある。池沼に植物が進出し乾燥したり、サギなどの繁殖により汚染がもたらされる場合もあり得る。樹林の伐採や、道路建設なども間接的に悪影響を及ぼす。(A, B)

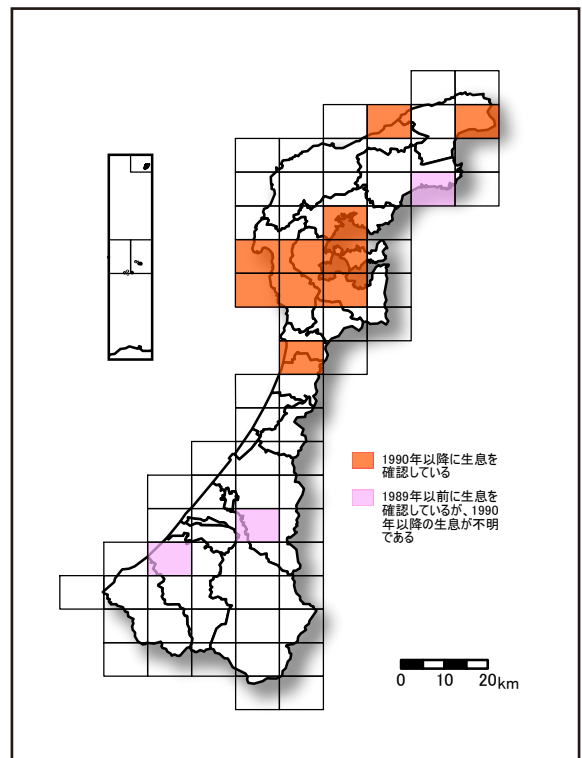
参考文献

武藤 明 1998. 石川・福井の1998年度の蜻蛉資料. *Tombō*, 41 : 33-36.

武藤 明 2006. 石川県の蜻蛉目. とっくりばち, (74) : 7-19.



標本提供者: 武藤明



県内の分布